

## 令和4年度の教育活動等に対する学校評価書

学校法人千葉学園千葉幼稚園 園長 岡本潤子  
 学校法人千葉学園千葉幼稚園学校関係者評価委員会

1. 教育目標 大人も子どもも共に『よくみる よくきく よくする』  
 八戸に生まれ日本人女性初の新聞記者であり教育者羽仁もと子の言葉を教育課程に織り込みながら、のびのびとした明るい環境の中で人とのふれあいを大切に、毎日の生活を丁寧に『よくみる よくきく よくする』人に。大人も子どもも共に学び合いながら。
2. 本年度取り組んできた重点目標  
 1) 具体的な教材研究の実践と実践結果の検証  
 2) コロナ禍における子どもの発達に着目し、身体の様々な部位を意識した運動遊びの充実と、教育内容の見直し
3. 評価項目の達成及び取り組み状況  
 ① 体操 ②多様性 ③科学 ④乳幼児の4つのグループに分かれ研究を実施。年度初めに定めた下記の取組指標と、成果指標を基に年度末に成果を検証した結果は下記の通りである。

評価項目	自己評価			学校関係者評価	
	評価	取組状況	取り組みによる成果	評価	意見
具体的な教材研究の実践と実践結果の検証	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動活動においては、子ども自身が自分の取組状況を目で見て次の意欲へつながるように自身の目標を決め、達成したらシールを貼るよう励み表を利用した。</li> <li>幼い子どもなりに社会に目を向けることができるよう、身近な社会である「お仕事」を中心に取り組むことができた。</li> <li>自然物を利用して教材を作り、保育に取り入れていたため、自然の変化に気づいたり関心が高まる姿を見ることができた。</li> <li>未就園児教室を乳児と幼児のグループに分け、親子で関わりながら、家でも楽しむことができるような手作り教材を取り入れることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>思うように運動ができないうちも、取り組む姿や意欲に対し励み表を活用したり、ほめたり励ますことを積み重ねることで、意欲へつながっていった。</li> <li>ニュースで耳にする社会の内容について子どもたちも関心を持っていたが、保育の中で取り上げたり活かす事ができなかった。</li> <li>自然に関する話題や気づきを広げたり追及するまで至らずに、終わってしまう事も多かった。</li> <li>親子共にとても楽しんでいただくことができた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者からのアンケート結果が、学年が上がるにつれて高評価となっている。園の取組への理解には時間がかかるが、着実に実施してきたことが伺える。</li> <li>子どもたちが意欲的にチャレンジする場があり、評価できる。</li> <li>どのような教材を使えばその子の力が育つのかということを考えて教材研究をしていることは、小学校の指導にも生きてくる。</li> <li>子どもたちの実態に合わせて指導方法を変えて保育を行っていく日々の取り組みは、十分評価できる。</li> </ul>
コロナ禍における子どもの発達に着目し、身体の様々な部位を意識した運動遊びの充実と保育内容の見直し	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>“励み表”に取り組む事で、子どもたちの取り組みにも意欲がわき、楽しんで取り組む姿が見られた。</li> <li>運動遊びの取り入れ方、実施状況、子どもたちの運動能力の現状と今後の改善点の共通理解を図った。</li> <li>運動に関して振り返ると同時に、教育内容を子どもたちの状況に合わせて見直ししながら実践することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常的な体操内容等、指導計画を見直すことにより、教員間で気が付いたことを伝え合う等、共通認識を持つことができるようになってきた。</li> <li>年長組において、子ども自身が運動や体操の際、リーダーになって活躍する場を設定することができなかった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍により、小中学生も体力が低下していることから、このような取組を実施したことは評価に値する。特に運動面での力は、幼児期からの経験の積み重ねが大切であり、経験はその子の自信にもつながるので、ぜひ継続して取り組んでほしい。</li> </ul>

### 4. 総合的な評価結果 (A:十分に成果があった B:成果があった C:少し成果があった D:成果がなかった)

評価	理由
B	前年度の自己評価から、日頃教員間で気になっていたこと、保育において大切なことに加え、今年度の取組を実践してきたが、教員一人一人が日々意識して園内にある様々な物を活用したり、新たな教材を作って保育に活かすことにより、子どもたちの積極性や意欲につながることができた。しかし、園内研修として取り組んできたことと、それによる成果を分かりやすく保護者や社会に示す伝え方が不足していたため、次年度は手紙やホームページ等を活用した発信方法に取り組んでいきたい。

### 5. 今後の課題と具体的な取り組み方法

来年度への課題	来年度の具体的な取り組み方法
教育内容を積極的に保護者や社会へ伝える	○カリキュラムの見直しを行いながら継続的に教材研究の実践に取り組み、子どもたちの育ちの変化を保護者や地域へ発信する情報発信の方法を見直し、実践を行い成果を得る。